

# パイオニア特2号(P3160)

**来歴及び経過**

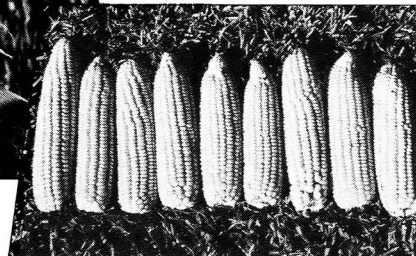
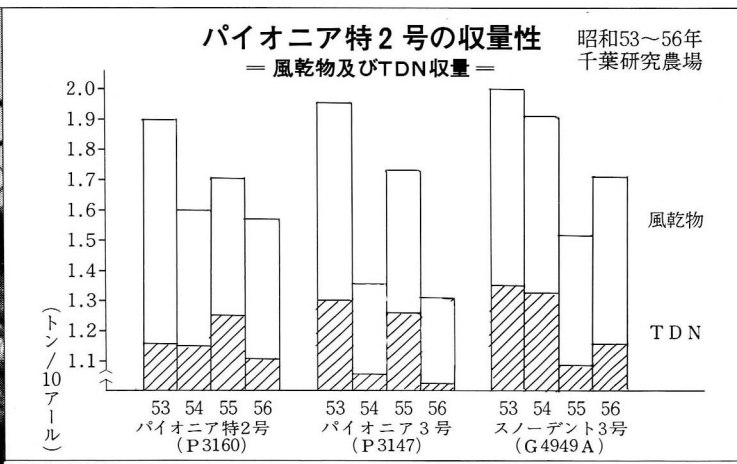
米国パイオニア社で育成され、我国には昭和53年より育成系統XA730Cで導入され、弊社千葉研究農場でテストを開始しました。

千葉研究農場における昭和53～54年の2カ年の試験結果より、耐病性・収量性に優れた系統と判定され、昭和55～56年の2カ年にわたって府県各地での現地試験、農家栽培に供試し、優れた特性と高収性が広く確認され、自信を持って今春より新品種として販売することに致しました。

**品種特性**

**パイオニア特2号 交配様式 単交配(モディファイドシングルクロス)**  
P3160(RM130)中生 育成地におけるRM 136

1. 早晩性 パイオニア2号(P3382)とパイオニア3号(P3147)の中間に位置し、スノーデント2号(G4810A)と絹糸抽出期はほぼ一致します。
2. 初期生育 低温発芽性を含め、初期生育は中程度と判定され、高冷・寒冷地帯での極端な早播きには適しません。
3. 耐病性 ゴマハガレ病には強い抵抗性を有し、黒穂病・スジイシユク病の耐病性も強くと判定されています。
4. 草姿 稈が太く、長稈で葉部割合が高く、スノーデント2号同様極めて男性的な印象を与えます。
5. 緑度保持 葉病害に強いことも関連し、生理的な枯上りが遅く、緑度保持期間が長い特性を有しています。
6. 耐倒伏性 倒伏には極めて強いが、折損には弱い傾向が認められ、台風常襲地帯では、作期の選定、品種の配分などを考慮する必要があります。
7. 雌穂 片親がフリント種の関係で子実はセミフリントとなり、子実の登熟も早く、中程度の雌穂割合が期待でき、稔性・揃性も優れています。
8. 収量性 3号クラスを凌駕する高収性をしめし、西南暖地～温暖地での通年サイレージ調製に適した安定多収品種と言えます。(詳しくは下表を参照下さい)



- ① 低温発芽性、初期生育が鈍いので、極端な早播きはさけて下さい。
- ② 徒長気味の場合、強風で折損の被害が出ることもありますので、適期播種に留意し、密植や2本立てをさけ、1本1本頑丈に育てて下さい。